特102
901

定期師の修養

始

特102
901

凡例

一、本書は改正取引所法立法者の意を汲み、根據ある諸般の材料に依り、尠からざる苦心と研究の結果、立案せしものなり。

一、書中手數料の計算法等は總て改正取引所法の本旨に準據せり。

一、地方に散在する仲立業又は紹介業は改正法に依り當然禁止さるべきものなれば、彼等の甘言に迷はさる可からず。本社は是等の不正業者殊に過渡の虚に乘ぜんとする委託業者の不正所爲を芟除せん事を期せり。

一、定期仲買店の盛衰は意外に急激なるものにして、遠隔地在住者は爲めに不測の損害を蒙らるゝ事尠からず、本社は幸にして之等内容を調査するの好位地に在るを以て、勉めて諸君の福利を擁護せんことを期せり。

一、政府者は可成無經驗者をして、斯界に近づかせしめざる方針を採りつゝあるを以て、今後の定期師は自己の利益を計ると共に須らく此意を体し、十分の修養を積むの必要

ある可し。吾人が本書を公刊するは聊か時代の新要求に應ぜんが爲めなり。

大正三年初夏

編者識

特102
901

投機成功の大鐵案
定期思想の大革命

定期師の修養

柏野孝太
平松機堂 共述

第一齣

第一章　緒論

閑却されたる一般定期師の修養。
嶄新にして根據ある成功法の發見。

定期師が成敗の分岐點は一に繫つて其修養如何に在り。吾人は今、定期師として最も必要缺ぐ可からざる修養の論議を試み以て斯界從業者の猛省を乞はんと欲す。思ふに修養是れ

能く實行し得ずとも、實行し得るだけの餘裕を心に藏するに於ては、蓋し最後の優勝者たらん乎。

抑も定期師が多く失敗倒産の悲境に陷りたる所以を温ぬるに、固より數多の事情原因あるべしと雖も、所詮は經驗の不足と意志の薄弱とが、最も重大なる敗衂の原因なるが如し、彼の徒らに歩調の强弱に拘泥し、相場の高低に執着し、形勢の推移と共に忽ち投げ倏ち煎れ、最初確立したる方針も、機に臨み變に應じて動搖常なく、克く百折不撓の確信を以て終始一貫する事能はざるは、即ち意志の薄弱にして修養の足らざるが爲めなり。

人或は相場を以て丁半に擬す、誤まれるの甚しと謂ふべし、元來相場と丁半とは其根底に於て既に黑白の徑庭あり、之れを比較對照するは餘まりに桁外れの嫌ひあるも、今百歩を退き若し相場にして一より六に至るが如く、高低の直巾自ら一定し、而して何等の手數料を要せずとすれば、此丁半主義に據るも或は可ならん、然れども相場は其高低の直巾に垣根なく且つ十枚を商内ふ毎に幾圓の手數料を要するを奈何せん、借問す天下廣しと雖も丁半流の定期師にして最後の成功者たり得しもの果してありや否や、吾人は未だ之れあるを知らず、左れば定期師として丁半主義を執るは、理論に於ても實際に於ても絕對に之れを排斥せざるべからざるは、敢て絮說の要なきなり。

世に三猿主義とて、見ざる聞かざる言はざるの語ありて、稍々吾人の意を得たる處あるも這は口に唱ゆる者多くして、事實に行ふ者極めて稀れなり、否な修養の足らざる結果、之れを事實に行ふ事能はざるなり。吾人は適切なる例證の下に、定期師の修養が案外大切なることを說明し、以て三猿主義を或程度まで容易に實行せしめんことを期す。

諸君試みに思へ、强弱の研究者、高低の爭奪士は如何に機敏巧妙なりとも、過去に於て多くは失敗の歷史を語るにあらずや、而して偶々成功者あるは、不知不識の裡、定期師として比較的幾分の修養を積みたる者なる事を發見すべし。故に諸君は前轍覆車の愚を繰返さゞるやう大に從來の心機を一轉し、以て新しき方面の研究に意を致すべきなり、換言すれば『決して强弱、高低の爭奪に執着す可からず』てふ失敗の根本的原因を放擲して、姑らく吾人の定期師修養論と共に、之れを根據とせる嶄新なる成功の秘訣に耳を藉す可し。

第二齣

第一章　理論

遠大、寡慾は成功の秘鍵。
卑近、我慾は失敗の基因。

强慾は無慾に似、我慾は破滅の基と知るべし。

社會の秩序全く定まれる今日、焉んぞ獨り定期社會のみが强慾者、我慾者をして、飽くなき慾を滿足せしむるの謂はれあらむや、思ふに人生一代の平均報酬率は、恐らく數千金に過ぎざる可し、さるを定期社會のみに、僅々數閱月の短時日を以て、之れに幾萬金の暴利を許すの理なきなり。

定期師現時の行動を見るに、總て旬日後の巨利を夢想して、一ヶ月後の小利を期するもの頗る稀なり、況んや一年後五年後十年後の收利を念ふ者に於ておや。試みに定期米相塲に就て一例を擧げんか、今日の拾錢高を喜ばざるもの莫しと雖も、壹錢高に滿足するもの殆

んど無し、是れ定期師の通弊にして實は失敗の基因たるなり、吾人の所謂定期師の修養とは、此通弊より蟬脫し、今日の拾錢高を喜ばずして、たゞ壹錢高に滿足せよと云ふの意なり。一見甚だ愚なるが如くして其實最も賢なるものなり、乞ふ全篇を通讀再誦して深く吾人の眞意を味へ。

故を以て心に此大革新を誓ふて、目前の空利に超然たる事能はざる定期師は、日夜の一喜一憂に心身を勞し、終生煩悶懊惱して遂に大成功者たる事能はず、如斯輩は只名のみの定期師にして、實は丁半を相塲に應用せんとする無智蒙昧の勝負師と云ふ可し。名實兼備の定期師は、近かき目前の巨利を冀はずして、宜しく遠き將來の小利に甘んじ、以て動かす可からざる數理的秩序を踏み、煩悶懊惱の圈外に處し、悠然として晩成を期するの心機に一轉すべきなり。

第二章　例證

楚々たる急伸的の梅樹。
亭々たる漸伸的の樟樹。

梅樹は一年にして能く尺餘の伸長を見ると雖も、終に喬木たる能はず、之に反して樟樹一年の伸長は遲々として言ふに足らざれども、幾百千年の老木は、亭々として天を摩し、其根底甚だ頑堅にして狂風豪雨も其威を逞ふし得ざるにあらずや。

從來定期師の抱ける思想は、只管梅樹の急伸流たらんことを希ひて、遲々大成的の樟樹たらんことを期するものなきが如し、勿論梅は梅として一時の成功を沒却する事を許さずと雖も、多年の星霜に朽ち果て、哀れ一塊の殘影だに留めざるは、樟樹の豪壯なる大成に及ばざること遠し、然かも世の定期師は尙且つ梅樹たらん事を欲するか。

吾人幸にして男子と生れ、身を定期界に投ずる以上、何すれぞ梅樹の小成を捨てゝ樟樹の如き大器晩成を冀はざる、況んや梅は毎年花を開き果を結びて其機能を全ふするも、定期師が過去の事實に徵すれば、梅樹にだも及はざるもの比々皆然り。故を以て吾人は現在定期師諸君の大なる反省を求めざるを得ざるものなり、但し梅樹たるは易く樟樹たるは難し於是乎吾人は極力修養の必要を提唱する所以なり。

云ふまでもなく生長の速かなる梧桐は、如何に大木と雖も、到底棟梁の材たる能はざるの理を知らば、樟樹の喬木たり得べき修養を積むは、蓋し定期師自からの大なる幸福にして同時に又た成功の眞諦を得たるものと謂はざる可からず。

第三章　實例

三日目の利益を捨てゝ。

六十日目の利益を取れ。

第二齣第一章及第二章は定期師修養の必要と其例題とを略示したるものにして、吾人は尙進んで之れを具体的に説明せん爲め、期米相場賣買の成績豫想を左に揭ぐる事とせり。

（イ）	三日目の利益	百石に付　六拾圓	（毎日貳拾錢高）
（ロ）	四日目の利益	百石に付　六拾圓	（毎日拾五錢高）
（ハ）	六日目の利益	百石に付　六拾圓	（毎日拾　錢　高）
（ニ）	十日目の利益	百石に付　六拾圓	（毎日六　錢　高）
（ホ）	十五日目の利益	百石に付　六拾圓	（毎日四　錢　高）

（へ）二十日目の利益　　百石に付　六拾圓（毎日參錢高）
（ト）三十日目の利益　　百石に付　六拾圓（毎日貳錢高）
（チ）六十日目の利益　　百石に付　六拾圓（毎日壹錢高）

試みに問はん、諸君は右八種の內其何れを歡迎せんとするか、三日後の六拾圓を欲するや將た又六十日後の六拾圓を欲するや、思ふに諸君は異口同音必らず前者（イ）を歡迎するに躊躇せざるならむ、然り之れ人情なり。或は云はん六十日後の六拾圓を期する程の餘裕あらば、寧ろ定期界に手を染めずと。

然れども人情は一種の弊を含むものにして、爲めに往々其方途を誤る事あり、又た定期界の成功に爾かく長日月を要するやうならば、進んで之れを利用せずと云ふが如きは誤れるの甚しきものにして、定期師失敗の原因亦た茲に存す。

頭から定期はボロイもの、相場の成功は急速なるものなりとの解釋は、自から好んで其立脚地を危ふするものにして、此誤解此感念を除去せざる限り、定期師の成功は到底望む可からず、吾人の觀る處に依れば、定期社界は世人の夢想するが如く決して爾かくボロキものにあらず、又斯の如き强慾漢をして輙すく成功せしむ可き社界にあらざるなり、果して爾かくボロキものと信じつゝある定期師にして、能く初志の通り成功したるものありや、吾人は却て其反證の多々なるを悲む、偶々成功したる者とても、僅々三日間に於て百石六拾圓の利益を確信したる者はよも無かる可し。

前說の如く、事實決してボロからざる定期をボロシと觀たる過去の定期師が、總て失敗せりとせば、此處は反對に相場はボロキものに非らずと云ふ觀察を爲す方、却つて成功の眞諦を得たるものならずや、否な吾人は此反對の觀察の下に定期を利用せば、たとへ成功者たり得ずとするも、決して失敗者たらざるを斷言せんとするものなり、而して吾人は百尺竿頭更らに一步を進めて、失敗者たらさるは軈て成功者たり得べき前提なりと信ずるものなり、吾人が諸君に對して三日目の六拾圓を希ふを止めて、寧ろ六十日目の六拾圓を期せよと勸告するの理由は主として此處に在り。

期米一日壹錢の直合は、單に其例を擧げたるものにして、吾人は一日半錢にても尙ほ滿足を辭せす、苟くも損失さへ招かずんば、一日半錢甚だ可し、之れを他の所謂實業なるもの

に對比せば、尙ほ數等ボロキものなる事を肝に銘じて忘る可からざるなり、一日壹錢の利は一見小なりと雖も、一年參圓六拾五錢即ち百石の米に對し參百六拾五圓の利なり、之れに要する資金は僅かに六拾圓に過ぎず。他に又斯の如き好職業好利廻はりのものありや。要するに眞面目なる觀念を持つ定期師は成功し、不眞面目なる定期師は失敗す、斯道に於ての此傾向は特に顯著なるものあり、左れば定期師は是非とも眞面目なる修養を積まざる可からざるなり。

第三齣

第一章　經驗

修養なき經驗は沙上の樓閣。
修養ある經驗は最上の寶庫。

意志の修養と關聯して、定期師に必要なるは實地の經驗之れなり。或は曰はん、修養は經驗に據つて積み得らるべしと、然れども修養の基礎なき經驗は恰も砂上の樓閣に等しく、十年の經驗も將た二十年の生涯も、勞徒らに多くして實功甚だ鮮かる可し、修養を心に懸けたる多年の實地經驗こそ、斯道に取りては最も賴母しき次第なり。

吾人は順序として實地經驗の功果を說かざるを得ず、先づ其素地として左に既往の定期米高低の歷史を掲げて、漸次に其論鋒を進めんかな。

第二章　波瀾

相場の波瀾は迂餘曲折。
天地の變化は四時不斷。

抑も定期米相場は、如何なる高低變動を演出し來りしや、今之を大阪堂島米穀取引所の公定相場に就て案ずるに、一年には一年の相場あり、一と月には一と月の變動あり、又一日には一日の高低ありて、千波萬瀾迂餘曲折の妙を極め。大暴騰の後に大崩落あり、小低落の後には必らず小騰貴ある事、尙ほ大山の麓に大原あり、小丘の下小野あるが如し。由來相場の本性は、緩急自在の循環性を帶べるものにして、四時不斷、細大多少の高下を

繰返す事、恰も天に晴雨風雷あり、地に洪水大火の變あるが如し。吾人は一層之れが明細に亘りて説明を加ゆるの必要あり、本書末尾に各種の統計圖表を掲出し置きたれば、就て參照考稽す可し。

第三章　革新

期間思惑は成功の基。
直合爭奪は失敗の因。

堂島米穀取引所の賣買立會法は、諸君の知る如く前場と後場との二回に大別し、而して前場を十節に、後場を六節に細分しあり、故に一日中十六節即ち十六回の賣買思惑を試み得可きの便ありて、其成敗を一日中に決せんとするも、亦一ヶ月中に決せんとするも、將又一年の長き間に決せんとするも、總て己が欲する儘なり。

又壹錢以上數拾錢數圓の直合ひを書き入れて思惑する事も自由自在なり、左れど吾人は多年實地經驗の結果、短日月の間に一定の利益を贏ち得んとするは危險にして、常に失敗の基因たるを知るものなれば、一定の期間を劃して無制限の直合ひを攫得せんとするの寧ろ安全にして軈て成功の前提なりとは、既に前各章に於て縷々論議したるが如し。吾人の修養論は斯の如く全く多年に亘る實地の苦がき經驗より煎じ揚げたる結晶物なり。諸君は須らく相場の一時的模樣に眩惑せずして、泰然自若の体度を持しつゝ、單に期間の長短を爭ふ可く、根本の定期思想を革新す可きなり。

第四章　警告

百年河淸とは何ぞや。
漫然の賣買を排せよ。

「定期の道は甚だ容易なり、安直を買ひ高直を賣れば必らず儲かる可し」てふ、極めて單純なる他人の甘言に乘つて、命と釣り代への大金を投じたる者亦た甚だ少からず、然り安直を買ふて高直に賣れば、屹度儲かるには相違なきも、幾圓幾拾幾錢が安直にして、又幾等が高直なるかを知るは至難の業なり、否な這は恐らく一生を其研究に費すとも、到底發

見し得ざる不可解の疑問なる可し、若し斯る研究に浮身を窶す者あらば、幵は百年河清を待つ一種の痴漢なり。

定期相場が果して爾かく單純明確のものならむには、定期界には一人の苦勞者もなき筈なり、尤も相場の前途は素より之れを知るを要せず、未來の高下は全然天の司配に一任して勝敗を決す可してふ、極端なる丁半者流に至つては論外なり、苟も貴重なる黄金を投ずる以上は、單に金錢の冥加としても漫然たる賣買を爲すは一種の罪惡たるを思はゞ、妄りに無經驗者の爲すべき事にあらず、たとへ無經驗者と雖も其成績だに良好ならば敢て咎むるを要せざれども、彼等の成績は理として不良なる事毫も疑ふの餘地なきなり、吾人は此處に重ねて諸君に警告せん、曰く『無經驗者の斷じて行ふ可からざるは定期相場なり』と。

第五章　合理

成功せざるは何故ぞ。
一日半錢に滿足せよ。

そも定期師の成功は、多年苦心酸膽たる實地經驗の結晶物なること、敢て吾人の說明を俟つまでもなかる可し。世に黑人素人の區別あるは、皆な經驗の有無多少の綜合的稱呼にして、素人の定期觀は必らずや比較的無定見無鐵砲なり、黑人は然らず、靜かに米界四圍の情況を達觀し、之れを過去に照らし實狀に鑑み、精査推究、表裏の事情斯々なれば米價の將來恐らく昻上すべしとか、又は低下すべしなど、たとへ當らずとも遠からざる適切妥當の觀察を下し得べし。然かも尙此黑人にして容易に成功者たり得ざるは、果して如何なる理由ぞや、吾人說あり乞ふ姑らく靜讀せよ。

抑も彼等が何故に成功せざるかを研究するに、彼等如何によく相場の將來を達觀し得たりとするも、主要なる期間の觀念を缺ぎ、修養の足らざる結果飽くまで素志を貫徹するの耐忍力なく、たゞ徒らに上手の賣買を爲すの罪に歸せざる可からず。自己の心裡に多年の實地經驗は、相場の將來を達觀して過つなしとの確信を得たる以上、少しく考慮を費して夫れ相當の方法を講ずるに於ては、至難の定期も旣に十中九まで必らず成功すべきものなりてふ斷案を得たると同じきなり。

相當の方法とは何ぞや、他なし從來失敗の原因たる『一定の期間を定めずして、唯だ直合ひの爭奪にのみ熱中するの舊套を捨てゝ、時を藥に相場を積むに在り』換言すれば一日拾錢の利を冀はずして、一日壹錢否半錢にても安んじて滿足し得るだけの修養を積むに在り相當の經驗を有する者にして、一朝豁然此修養と此忍耐とが、終局の大利益たるに思ひ到らば、定期界の優勝者たる事蓋し期して待つ可きなり。

第六章　發見

完全なる合議制度。

蓋し近來會心の擧。

以上數章に亘りて縷述したる處により、吾人が主張の大要は、略ぼ說き盡したるが如くなれども、經驗の量貧弱なる素人諸君に對し、尙ほ一言を費すの要あるを認む。

前章に說示せし如く、經驗乏しき定期師は、到底相場の强弱と將來の高低を卜知する事能はざるべし、隨つて賣る可き時と買ふ可き場合を知らざるのみならず、一定の期間まで最初確立せる方針を持續し得ずして、形勢の變化時日の推移と共に氣迷ひを生ずるの憂ひあり、加之、或期間の中途に於て利入れを急ぎ、忽ち轉賣買ひ戾しを行ふと同時に、偶々商內の順なる際、空しく手を明くることの如何にも惜しきが如き感に驅られ、强いて第二の思惑を續行する事多し。斯く一定の期間內に於て、二回以上數回の賣買を爲すは、經驗乏しく修養の足らざる所謂素人定期師の常弊にして、不測の損害と不慮の禍根は必らず此間に胚胎するものなり。豈深く愼まざる可けんや。於是乎定期師の成功は、最も豐富なる經驗を要求して止まざるの理、瞭然火を睹るよりも明かなり。

本社は幸にして長き多年の修養と、深き實地の經驗とを有する黑人の集合團なり、不敏と雖も斯界の後進者に對し、決して智識の薫陶を辭せざるなり。

今回社中同人を以て組織せる、合議賣買制度の贊助者、殊に無經驗者が猾者の甘言に乘せられて多大の損害を受け、之れが恢復を計らむとする可憫なる素人相場師に向つては、吾人滿腔の誠意を傾注し、献身努力、互に相抱擁して貨殖と恢復の途を講ぜん事を誓ふ可し、蓋し近來會心の擧と謂ふべき乎。

第四齣

第一章　結論

諸君尙斷行せざるや。
斷行者必ず成功せん。

定期師として不足なき實地の經驗を重ね、且つ之れに伴ふて相當の修養を積み、而して公平なる觀察を下し、確乎不拔の賣買方針を樹て、飽くまで相場の高低に執着するの弊を捨て、心機一轉靜かに期間思惑の新思想に改めなば、歲末に於ける成績は必らず意外の利益を生ずること毫も疑ふの餘地なきなり。

吾人が本書を刊行するに際し、特に調査したる期米直合四拾四錢の損益回數平均率を見るに、手數料の附き纏ふがため、十回の損失は十二回の利益に依つて漸く全部を回收し得べく、又直合八拾四錢を標的とすれば、十回の損失は十一回にて回收し得可きを知る（別表參照）吾人は今假りに前者の四拾四錢を標準に取りて、最後の斷定を試みんとす。

抑も期米思惑十回の內、五回を當てゝ五回を誤るは、素人にても尙且つ爲し得べく、少しく經驗を有する者は、四六の成績を收むること左して難事に非る可し、まして大に經驗を積みたる者の七三の成績を擧げ得るに於ておや。若し夫れ、黑人の衆智を竭したる合議制を採るに於ては、優に八二の好成績を擧げ得る事、吾人の斷言して憚らざる處なり。吾人は曾て此自信を有す、否自信を有するのみならず、過去に於て慥かに此成績を告げたり、況んや調査機關通信機關の完備せる今後に於ておや。

吾人をして忌憚なく言はしむれば、普通の常識と公平なる觀察眼を有する定期師は、百人が百人とも吾人と同一の信念あるべし、若し是だけの信念を有せずとせば、开は定期師本來の無資格者として、吾人は寧ろ相場を斷念せしめんと欲するものなり、何となれば六四の確信以下よりなき定期師ならば、終生斯界に浮游すればとて、到底頭の上がる見込なし、這は敢て吾人の無稽なる放言にあらずして、數理的過去の實例が正しく裏書きしたる斷案なればなり。然るに尙七三乃至八二の資格ある定期師にして、何故成功せざるやと云ふに、其原因多々なる可しと雖も、要するに期間思惑てふ事に思ひ及ばざること其一、修養の足

らざること其二、資金相應の賣買に滿足せざること其三、大凡此三大理由に基因するものならん。故に吾人の説の如く、此三大失敗原因を排除し得ば必勝疑ひなきなり。

今八二の成績を得と假定すれば、二回の損失は九拾六圓(直合四拾四錢手數料四錢、都合四拾八錢即ち百石に付き四拾八圓となる、明細は別表參照あれ)にして、八回の利益は參百貳拾圓(直合四拾四錢内四錢手數料控除、差引四拾錢即ち百石に付き四拾圓)なり、此内二回の損失額九拾六圓を差引くも、貳百貳拾四圓てふ巨利を贏ち得可し、百石据へ置き一ヶ月一回の賣買にして尙且つ然り、若し之れを扇面的ならずとも、堅實安全なる遞加法によつて增石を行かんか、利は利を生みて年末の利益は、夢かと驚くばかりの數字に達すべし、要するに定期は兎に角儲かるべきものなり、能はざるにあらず爲さゞるなりとの結論を與へて、玆に一先づ擱筆せんとす。終りに臨み試みに諸君に問はん。吾人の論旨よく諸君の腑に落ちたりや否や、若し十分腑に落ちざる點あらば直ちに來社せよ、吾人は更らに別に大に語る處あらん。

定期師の修養(完)

第一附錄

△成功者列傳

定期界成功者の生きた歷史。
吾人の理想と不思議に一致。

成功したる定期師の歷史を繙くに、暗々の裡悉く吾人の理想と一致せるものあり、吾人の理想とは「定期師の修養」てふ題下に論斷したる全篇を指せるものにして、左に期せずして吾人の理想と一致せる成功者の實例二三を揭げて、諸君の參考に資せんとす。思ふに彼等は世人の妄信せる如く決して偶然の僥倖者にあらずして、不言の裡に意志の修養あり、實行の上に直合の爭奪を斥けて、期間思惑敢行の顯著なる蹟を認る事を得べし。

故 和久伊兵衛氏

和久氏は幼少の頃より身を堂島の米界に投じ、熱心努力前半生を定期相塲の經驗と意志の

修養とに捧げたり、之れ後半生に於ける氏が成功の前提なりき。氏は米價の向ふ三年間必らず安かるべきを看破し、三年の長き間徹頭徹尾賣り方針を固執して巨益を博したり。這は有名なる米界の史話にして、氏の面目は之によつて一層躍如たるものあり。君が斯の如き米價の大勢を看破し得たるは、主として前半生に於る實地經驗の賜にして、而かも最初の確信を屈せず、三年間賣り方針を一貫せしは、之れ又た多年修養の結果に外ならざるなり。氏は斯の如き强硬の意志と悠揚なる態度とを以て吾人の理想を實現し、最後の成功を贏ち得たるものにして、名聲嘖々一世を驚かしたるは、毫も怪むに足らざるなり。

故 古門九右衞門氏

曩日物故したる古門氏の成功譚は、前記の和久伊氏と稍々其軌を同ふせるも、古九には和久伊の度胸なきため、和久伊の正々堂々たるに比して聊か姑息の嫌ひありたり、然れども中央米界屈指の大成功者たること、識者の筆に俟つまでもなかるべし。氏は弱冠にして志を立て、播州曾根の鄉里を出でゝ大阪に來り、丁稚奉公より身を起して終に百萬の資產を子孫に遺したり。氏の意志及び態度は、每々吾人が每夕紙上に掲載したる如く、追窮突擊を避けて、悠揚迫らず、建米石數も亦豫め制限を設け、長日月を期して賣買を試みたるため、每時終局の成功を謳歌せざることなかりしと云ふ。而かも一二萬石に過ぎざる期米思惑のみにて、百萬金を積み得たる氏の如きは、其堅忍眞に驚嘆に値するなり。米情に精通したる氏の背後には、必らずや云ふべからざる苦心修養ありしや勿論にして、其經驗の深淺如何の如きは、玆に改めて論評するの要なかるべし。今春高見軍に戰ひを挑みて、一時受け太刀の姿ありしも、大勢を達觀して終始素志を一貫したる氏は、遂に敵を仆して凱歌を奏するを得たり、氏の如き期間思惑的行動は、餘程の修養と經驗なきものゝ決して企及し能はざる所なり。

龜田介次郎氏

東都米界の最大成功者たる龜田氏は、電光將軍の異稱を受け、驍名天下に嘖々たるものあり。氏の米界に臨むや、其機敏なること電光石火も啻ならず、所謂橫槍の名人として氏の

一擧一動は常に斯界の注目を惹けり。而して其思惑たるや、年間漸く両三回に過ぎずして一旦戰機熟すると見るや、自ら馬を陣頭に進めて敵の本營に肉迫し、敵を仆さずんば已まざるの概あり。蓋し百發百中必勝不敗の奇策と謂つ可きなり。氏の經驗と修養とは克く定期の眞髓を穿ち、其思惑を年內數回に止むるの一事は、大に吾人の意を得たる處なり。

松澤與七氏

松澤氏は意志甚だ鞏固にして、而かも泰山崩れ來るも動ぜざる底の膽力を有する定期師なり。氏が此の不動の膽力と鞏固の意志とは、千辛萬苦を經たる修養練磨の致す處に外ならず。氏は名古屋在の人、妻女は浮き川竹の流れに棲みし賤女にてありき、曾つて夫妻相抱いて東京に馳け落ちしたる汚名も、後ちには大功は細瑾を顧みざるの美談となり、今は功成り名遂げて鄕里に隱棲し、優々餘生を樂まるゝ事人の知る處なり。妻女又た賢夫人の譽れ高く、常に氏の短所を補ひしかば、遉が剛腹の氏も妻女の劃策に從ひたること尠からずと云ふ、氏の雅量亦愛すべく掬すべきかな、左れば氏が成功の一半は、是非とも內助の功に嫁せざるべからざるなり。吾人が合議制の必要を說く豈他あらんや。

野田槌太郎氏

現に堂島仲買人なる野田氏は、曾て松谷天一坊事件に關連し、問題の容易に解決せざるを嘆じ、自から壹萬圓の手形を燒棄し、以て圓滿の局を結びたりしことあり。其英斷は米界有史以來の美譚として、今に至るも市人の口に膾炙さるゝ處なり。氏既に此卓抜せる英斷を有したるも、經驗修養未だ足らずして、遂に天一坊のため累を及ぼされたり。爾後年所を經るに從ひ、成功者たるべき資格全く具備し、近數年來氏の一擧一動は、市人注目の焦點となれり。氏常に記者に語りて曰く『向後三年間は賣り成功の時代なり』或は曰く『今明年は買ひ成功の時代なり』と、氏は實に斯の如く遠大の方針を確立し、同時に之れを實踐躬行したる人なりき。經驗修養なき人にして安んぞ能く斷行し得んや、蓋し氏の今日ある決して偶然の大成にあらざるなり。

其他の成功者諸氏

株界に於ける岩本榮之助氏の如き、山内卯之助氏の如き、小川平助氏の如き、米界に於る川上佐太郎、上野與吉、一宮喜十郎、岡半右衛門、石崎龜藏、濱野茂數氏の如き成功の經路を尋ぬれば、其經歷の軌は將さに上記の諸氏と大同小異なるを知るべし、茲に一言注意し度きは、米界の成功者は東京に比し大阪に多きことなり、之れ東京は宵越しの錢を使はざるてふ江戸ッ兒主義を發揮し、大阪は所謂贅六流の採算主義を露出せるものなるが故ならんか、兎に角定期市場にも眞面目は必要の資格にして最後の成功者たらしむるが如し。

因に本社は斯かる大手有力者と陰に意を通じ、新聞紙上に公表して讀者の參考に資し、一面自ら賣買駈引の侶伴として、絕へず意見と動靜に注意を怠らざるなり。

第一附錄（終）

第二附錄

▲失敗者列傳

智勇と術策は一時の榮。
失敗の歷史は前車の誡。

▲故石藏氏　氏は痛快なる一個の定期師なりしも、惜しい哉、機を見るに敏にして策なく、非凡の胸量を有せしも進退去就の法則を知らず、米穀に株式に綿糸に大思惑を樹て、常に八九分通り成功したれども遂に終りを完ふせず、定期界の猪突將軍として早世せるは死後と雖も恐らく瞑目せざるべし、氏にして若し實際の經驗と深大の修養とを併せ得たらんには、天下の糸平以上の人物たりしならんに。

▲神吉氏　實地に於ける多年の經驗と獨特の修養を積みたる神吉氏が、何故頓挫したるやと云ふに、氏が定期師としての分限を知らざりしは其一にして、專ら直合の多寡を爭は

んとして、期間思惑に留意せざりしは其二なり、奇禍遂に獄裡に呻吟するに至る氏は、同時に當然隱退せざるべからざる絕好の機會なりしにも拘はらず、蹶然男らしく隱退する能はず、執拗にも商内を續行せしは、輕擧妄動の振舞と云ふべく、幾十年苦心の結果、折角贏ち得たる貳百萬圓を水泡に歸したるは、主として期間虐用の罪なり、氏が無慘の失敗は斯界の爲め情に於て惜むべきも、理に於ては寧ろ當然の成行なり、豈誡めざるべけんや。

▲高見氏　昨年の賣思惑は定期市塲に於ては、美事に功を奏せしも其得たる利益は正米の失費となり、差引勘定無出入に大團圓を告げたり、偖て今春は反對の買方として打つて出でたるが、時代は未だ買思惑者に援助すべくも非ず、米價の大勢に反抗し、人爲的策略の一點張りにて買煽りたるは、天下の衆敵を引受けざるの止むなきに至れり、加ふるに限りある僅少の戰鬪費を以て、無限の米を思惑せるは、氏が成敗逆睹するに難からざりき。氏にして若し期間思惑の一事を悟り、資力相應の賣買に甘んずるの修養ありたらば、必ず成功すべかりしならんを。氏は期米並に正米の両道に掛けて經驗厚く觀察非凡、度量劃策兼備の勇將にして、斯界稀れに見る偉傑なるが如し、氏尚春秋に富む、吾人は氏が資金の調達と共に、遠からず會稽の耻を雪ぐの秋來るべきを信じて疑はざるものなり。斯界のため折角自重する處あれ。

▲臼井、上清二氏　共に東京正米商の巨擘、米界の双璧として、明治三十三四年頃より期米に手を染めたるが、両雄並び立たずの譬の如く、常に相反目して雌雄を東西二大市塲に爭へり、親讓りの財産を受けたる両氏、何んぞ經驗修養あらんや。即ち相前後して瞬くうちに失敗し、槿花一朝の夢の跡、今は其生死さへ疑はるゝ有樣なり。嗚呼積み度きものは經驗なり、知るべきものは修養なり。

▲鈴久氏　氏は日露戰役後、株界に清商吳錦堂を向ふに廻し、一擧千萬金を攫得したりと傳へ、絕世の好運兒として內外羨望の的となれり、然るに齡若ふして經驗乏しく、修養の二字を知らざる氏が、克く此大金を擁護し得べき筈なしと看破したるは、今日の總理大臣大隈伯爵なり。伯の忠言を容れざりし氏は、果して收拾す可からざる蹉跌の穽に陷り、大隈伯を嚢に受けたる羨望、忽ち嘲笑の聲と化せしは又た憐れならずや、思ふに氏の失敗は、大隈伯を俟たずとも、吾人の理想に背馳するの一事を以て、容易に其最期を豫知し得らる可き

なり。

第二附錄（終）

第三附錄（一）

斯の如き場合には屹度暴騰した。

堂島期米三十丁高下を標準としたる過去の實例。

年月日並に其場合の相場を記入して、詳しく説明しやうと思つたが、却て煩雜の恐れがあるので、殊更に年月日と相場は之れを省略することゝした。

▲其一　連日相場低落するか、若しくば弱持合ひを繼續し、正米も安く人氣も惡く、市人皆競ふて賣り募ひ、自分も亦賣り度いと思ふ場合に、多く底を衝くと云ふ事は、昔も今も變らぬ處である、殊に春季に於て此傾向ある場合は、最も深い注意を要するのである。

▲其二　立會前の氣配や他方面の事情から推測して、先づ壹貳拾錢安が至當だと思ふた

にも拘らず、參拾錢以上も下放れとなつて、所謂氣一杯の相場を出した時は、往々眼先きの小底を入れるものである、之に反して貳拾錢も安からふと云ふ見當が、僅か參五錢安に止まるとか、又は逆に高い場合があつて、所謂氣配ボケの時は、十中八九までは跡が高くなつて居る。

▲**其三**　相場の勢ひとして行き過ぎる事がある、即ち安過ぎた相場は、些細な動機に接しても、よく大きな反動的跳ね返しが出るものだ。

▲**其四**　當月限が意外の大受渡を以て納會を告げ、其納會相場が案外崩落したゝめ、中先限も其餘波を蒙つて、一頓挫を演じた擧句に、反動的暴騰となつた例は決して少くはない。

▲**其五**　毎朝下寄りして跡高い事が打續く時は、大勢向上の米と觀察して差支へない、其理由は直頃とか跡覺へとか利喰とか云ふ關係から、寄附には地方の注文が輻輳して下放れるからである。

▲**其六**　數日降雨の後ち天候全く回復し、日和案じが却て樂觀となり、相場が思ひ切つて崩落した場合は、反對に買狙ふのが平均成功することは疑いないやうである。

▲**其七**　東京を始め各地一般が低落又低落を移して、早耳筋頻りに賣逸ると雖も、一向相場に影響せず、淀かりとして保合ふ事があつた時は、幵は下地に下げ得られぬ特殊の事情が伏在して居るのだから、買ふ方に利があるものだ。

▲**其八**　他所が低落する間は知らぬ顔をして下げに靡かず、他所が戻しかけると其方には必ず隨ふて高くなる、詰まり各地との直鞘が接近した處は、買方に八九分までの勝算がある。

▲**其九**　目指す買方が落城した場合は、當座の底となることが多い、買方から貫米又は解合を申込んだ場合も亦同斷である。

▲**其十**　無意味の如く、相場がポカンと上放れた時は、夫れが動機となつて暴騰するものだ。

▲**其十一**　新甫發會後一兩日中に、發會直から貳拾錢内外下這ふた處は、春相場に限つて小底となるから、常に要愼して居なければならぬ。

▲**其十二**　當限の俵括りや買聯合が出來たら、有力であるか否かを取調べ、若し有力で

あつたらば須らく提灯を附けるべしだ、如斯場合深入りは良くないが、其鼻三十丁や五十丁の利は屹度貰へる。

▲其十三　定期がジッとして居るに拘らず、正米産地がヒン附く場合は、決して油斷が出來ない、春の米は産地から上げて來ることも毎度に及んで居る。

▲其十四　採算を無視して法外に賣り込み、賣り過ぎ或は自己の勢力を利用して賣り叩き賣押へると、跡の反騰が急激なものである。

▲其十五　來客筋の向背は、特に注目に値するものだ、取引所の表合せを點檢して、上長の現象を呈して居た時は、軈て高直の出る前兆と觀測して萬々違算はないやうだ。

▲其十六　夏海上の相場は、天候の良否によつて、急騰激落殆んど送迎に遑なからしめると云ふのが原則である、而して夏海上の米は、買ひに八分の利ありとは古來の通り相場となつて居る、然り直頃の如何に拘はらず、向ふ見ずの强氣が成功する時季であるから、買狙ひ主義を取るのが黒人の常套手段である、別して以下の如き場合には屹度暴騰した、即ち好順打續き青田譽めのため、或程度まで低落した擧句の如きは最適例だ。

▲其十七　晴雨は多く東漸するものだ、故に九州馬關等の西路相場が俄然暴騰を報じた時は、天候に異變を生じたのに違いないから、假令へ東京が安くても西路に從はねばならぬ、夏季の西路高が堂島を風靡することは想像以上である。

▲其十八　測候所の暴風雨警報の發表は、大概一と相場を演出せしむるに足る、是も定期師の注意す可き一點だ。

▲其十九　蟲害發生の區域が一縣下或は數郡に過ぎぬ場合でも、期米は優に四五十丁の影響を蒙ることが多い。

▲其二十　此天氣を入れて下げないのは、克く〳〵堅い相場だと感じたら賣るべからず一片の雲を發見するが最後一沸騰は請合ひだ。

▲其二十一　二百十日前後の晴れ渡つた天候にても、下げぬ相場は油斷が出來ない、殊に五風十雨の好順を譽め、豐稔滿作の前祝ひなんか云ひ出したら、秋日和が假りに良かつたにしても、相場は其割り下げないものだ、若し多少でも異變を來したが最期、俄かの突飛高となることが多い。

▲其二十二　そろ〱結實期に移らんとする頃からの早冷は、相場に影響する事甚だ大且つ急なるものである、萬一水霜でも降らふものなら、慥かに四五十丁以上の刺戟材料である。

▲其二十三　鎌入れ不足は、豊作ならずとも平作以上の豫想を下して居つたのが、苅入れて存外實收が尠いことを云ふの意で、其原因は成熟期の天候不良に遭ふたものである、之れ亦一時は頗る人氣を動搖せしむるに足るの一材料である。

▲其他　右に類する暴騰の實例は、まだ〱澤山あるけれども、此處には其一般の例を示めすに止めて、自餘は諸君の類推に任かせて置かふ。

第三附錄

(二)斯の如き場合には屹度崩落した。

堂島期米三十丁高下を
標準としたる過去の實例。

期米崩落の動機は、概して其暴騰の場合と正反對であるから、先づ前記暴騰の裏と思へば大した間違もあるまい、随つて玆に詳説の要はないやうなものゝ、強ち一樣でない事もあるから、左に相違せる四五の實例を掲げて見やう。

▲其一　古來天井一日底百日と云つて、多くの場合持合ひの裡に底を入れるが、天井は之れと反對で、形勢潑溂たるうちに忽ち天井を打つものと略ぼ相場は極まつて居つた、處が近來は大分其調子に變はつた味を見せるやうではあるが、矢張りトン〱拍子の暴騰が打續く時に天井を衝いて、間々賣狙ひの機會を與へ、どうかすると反落の例を示めして居る。

▲其二　崩落の機に移らむが爲めに、消へ光り的に掉尾の活躍を演ずることがある、又相場が當然低落の大勢に在つても、途中特別の事情のために高調子を示めすことがある、けれども开は一時的現象と觀て、決して眩惑してはならない。

▲其三　一定の範圍を繰返しつゝあつた小相場が、突然新高直を見せることがあつても根本から立ち直ほる相場でない以上、新直を出したまゝ跡ダラ〳〵下がつた實例も少なくないから、サア持合の圏内を脱したから買へと云ふ譯けには行かない、要するに大勢に逆ふての買方針は飽くまでも禁物である。

▲其四　青田譽めとか盆田譽めとか云ふ相場には、略ぼ限度があるものだから、長追いするのは良くない。

▲其五　右に反して秋落ち相場となると、無制限とまでは行かないが、青田盆田の譽め落ちに較べて、其直巾は餘程廣いものであるから、愈々大勢の順に向つたならば、追驅けて賣つても決して遲くはない。

▲其六　正米を渡して引合ふ時代は極めて稀れなものであるが、賣方が十二分の渡米を準備し、一方受取方の態度が薄弱であると、其鼻一と相場は確かである。

▲其七　買方が勢ひ止むを得ずして心にもなき巨萬の大受米を敢行すれば、其鼻相場も一寸は氣を持つものだ、併し定期師の持つた正米は再び定期に賣り繋がるゝもので、却つて受渡後の人氣を惡るくするのは當然の理である、斯の如き無理受けのあつた後は、大概崩落の步調を辿つて居る。

▲其八　政府の調査に係る米作豫想や實收發表は、市人の想像より多くとも少なくはないのが殆んど毎年の例となつて居るやうだ、數字の多少に拘はらず、其實際の量に變はりがない以上、相場に影響を及ぼすことはない筈だと思ふのは間違で、矢張り夫れ相當の低落を告げて居る、此邊の人氣作用も篤と考へて置くの要がある。

▲其他　相場は勿論理由なくして高下する筈はないのだから、暴騰の塲合にも暴落の塲合にも、理由は必らず付き纏ふものだ、理由を相場の濟んだ跡から調べても一向役に立たないから、豫ねて過去の實例と其高下の理由を精査して置いて、將來に應用するのが必要である。

第三附錄（三）

相場の成敗は仕掛の如何に在り。
仕掛の適否は査察の如何に在り。

吾人は最後の擱筆をなさんとするに臨み、事の成敗に重大なる關係を持つ賣買仕掛け上の心得に關して、一言を費すの要を認めて來た、這は聊か蛇足に類する嫌ひもあるが、又た吾人老婆心の發露に外ならないのである。

要するに相場は四時間斷なく高下變動するものではあるが、四圍の事情乃至相場の現勢斯の如しとすれば、前例に徴して屹度高いに相違なしとか、又は必ず安いに違いなからふと各方面から精細な觀察を下し、行屆いた上にも行屆いた研究を費して、賣買進退の方針を確立せねばならぬ、此の方針を定めると云ふ一事が、事の成敗上最も大切なものであるから、賣るのも買ふのも決して急ぐ事は要らない、否な焦せり急ぐと云ふことは相場の禁物である、修養あり經驗ある定期師は五度の思惑は三度でも、三度の賣買は一度としても、

寧ろ違算のない時機を狙ふて仕掛るに限るのである。吾人が縷々論議したるが如く、苟も定期師としての資格が具備した以上は、賣買の仕掛け時機を研究する事が一番の必要條件で、此第三附錄を添へたる吾人の微意も亦此邊に存するのである、此儀呉々も諸君の注意と共に十二分の研鑽を願つて置く。

第三附錄（終）

大正参年六月拾八日印刷
大正参年六月貳拾日發行

定價金五拾錢

編輯者　平松嘉久藏

不許複製轉載

印刷兼發行者　柏野孝太

大阪市北區堂島中一丁目三十九番地
發行所　大阪毎夕新聞社
電話長　東三五五八番
　　　　東四八一七番
市場特設連接三五五八番
振替口座大阪五番

本社刊行圖書目録

本社が過去に於ても亦た定期界に貢献せること最近左記各種の圖書刊行せるを見ても明かなるべし米界専門の新聞社多しと雖も恐らく本社の如き熱心はあらざるべし。

書名	摘要	特價	郵税
増補虎之巻	全	壹圓	六錢
期米神機活法	天地二巻	七圓	八錢
成功要訣商典 一名諸戸式罫線術（十二年間拾錢高低表添附）	全	貳圓	六錢
六甲傳	全	貳圓	六錢
期米大觀	四六紙版 全	参拾錢	貳錢
幾法	毎月發行	五拾錢	貳錢
毎夕日記	一冊	八錢	貳錢

大阪毎夕新聞

記事正確、報道迅速、議論公平、觀察奇警、材料豐富、印刷鮮明、趣味横溢、定期界必須の日刊新聞紙として社會の信任甚だ篤く、廣告の効果顯著なり、朝夕二回發行す

朝刊は殆んど仲買專用の氣配狀にして一般廣告登載謝絕

夕刊は毎日午後三時刷出す、定價表左記の如し

一ケ月（郵税共）　金參拾參錢
三ケ月（同　）　金九拾六錢
六ケ月（同　）　金壹圓九拾錢

毎夕通信部

本部は一己私的の妄斷を愼み、嶄新なる組織の下に、多數の專門部員が、有ゆる方面よりの觀測を基礎となし、之れを綜合精査して斷案を與ふるが故に、殆んど其指導を過つの弊なく、常に相場の正鵠を射つゝありて、誠意を罩めたる感謝狀山の如く、今や**通信界の霸王**なりてふ公評を博するに至れり、而かも其料金は左の如く至廉なり。

滿一ケ月　内地八圓。　臺鮮滿九圓。

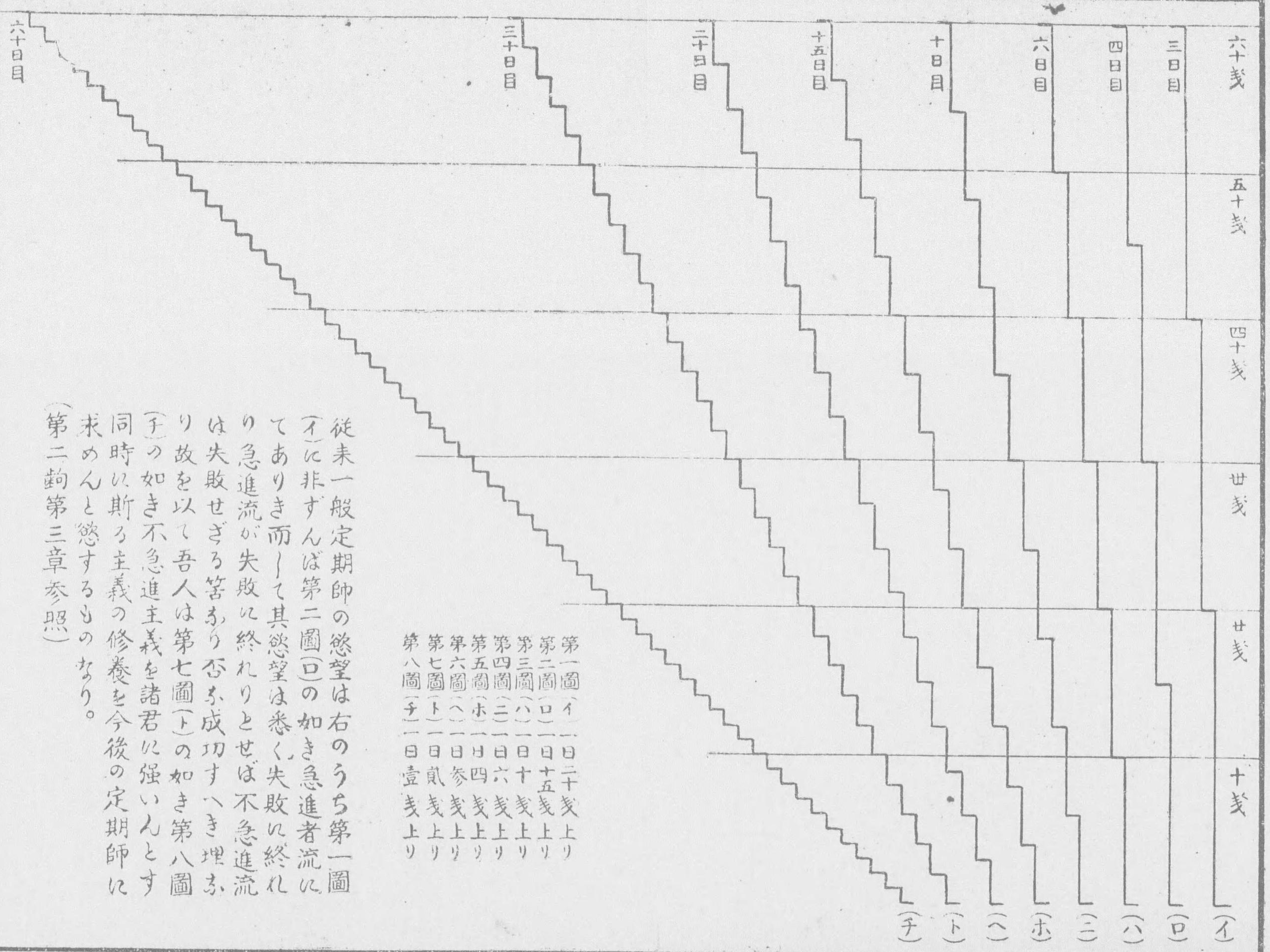
但し書簡通信の外、賣買の好機及變兆等は隨時急電を發す。
尚ほ詳細の事項は御請求次第規則書暗號及參考書類を送呈す。

大阪堂島中一丁目

大阪毎夕新聞社 **通信部**

電話長東三五五八番
電話東四八一七番
電話（市場特設）東三五五八番
振替口座大阪五番

270

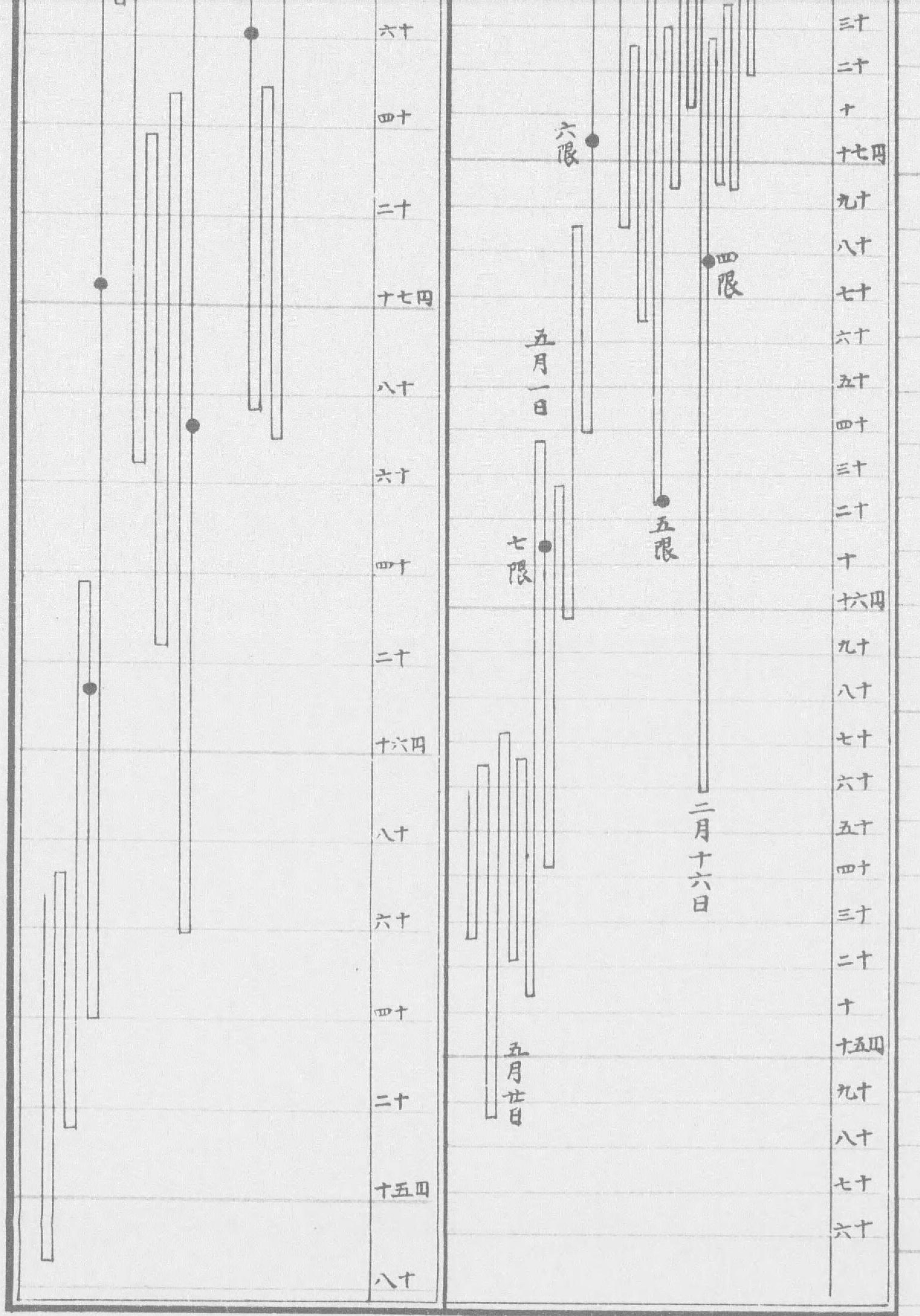


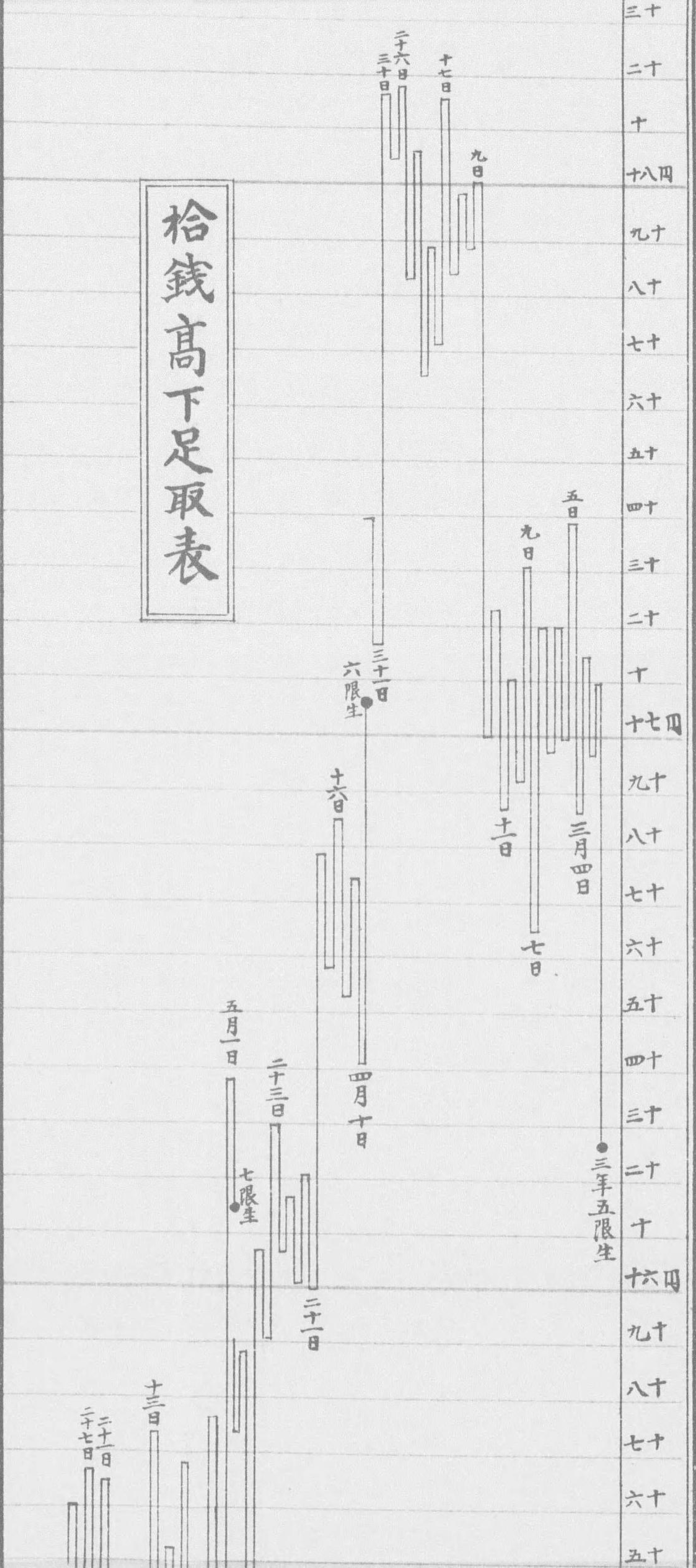
第一圖(イ)一日二十戔上り
第二圖(ロ)一日十五戔上り
第三圖(ハ)一日十戔上り
第四圖(ニ)一日六戔上り
第五圖(ホ)一日四戔上り
第六圖(ヘ)一日参戔上り
第七圖(ト)一日貳戔上り
第八圖(チ)一日壹戔上り

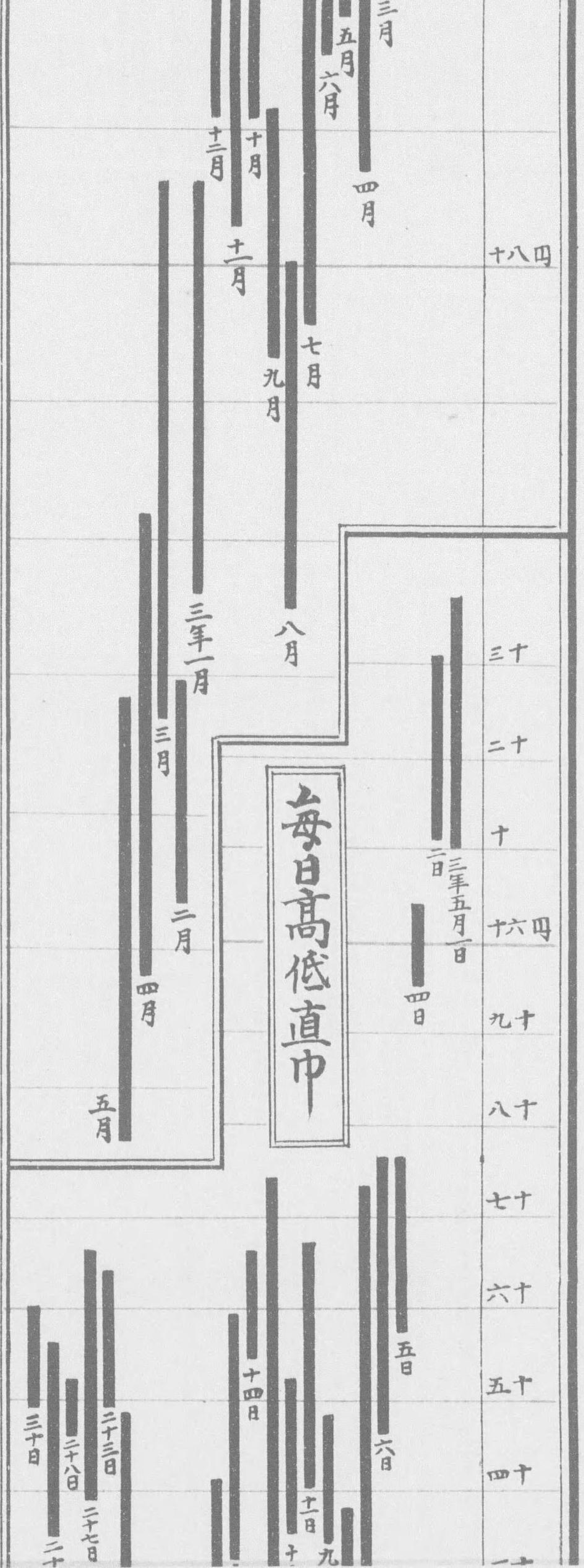
従来一般定期師の慾望は右のうち第一圖(イ)に非ずんば第二圖(ロ)の如き急進者流にてありき而して其慾望は悉く失敗に終れり急進流が失敗に終れりとせば不急進流は失敗せざる筈なり否な成功すへき理なり故を以て吾人は第七圖(ト)の如き第八圖(チ)の如き不急進主義を諸君に強いんとす同時に斯る主義の修養を今後の定期師に求めんと慾するものなり。

(第二齣第三章参照)

五拾銭高下足取表
三拾銭高下足取表
十二月六日
一限
三月廿六日
三限
十一月廿八日
六限
毎節成行相場
毎月高低直中
十二月
二年一月
元年十二月
二月
三月
五月
六月
四月
十月
十二月



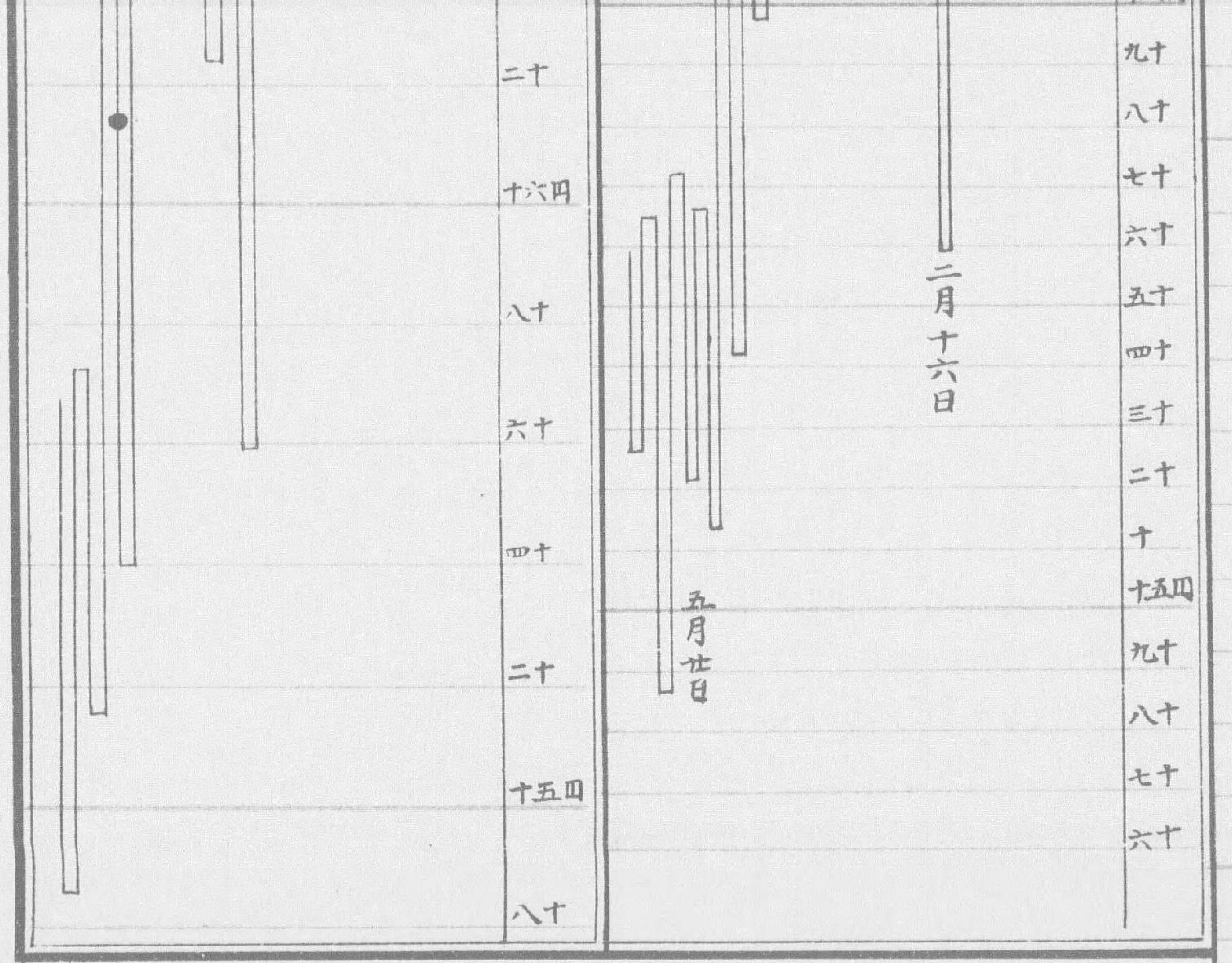


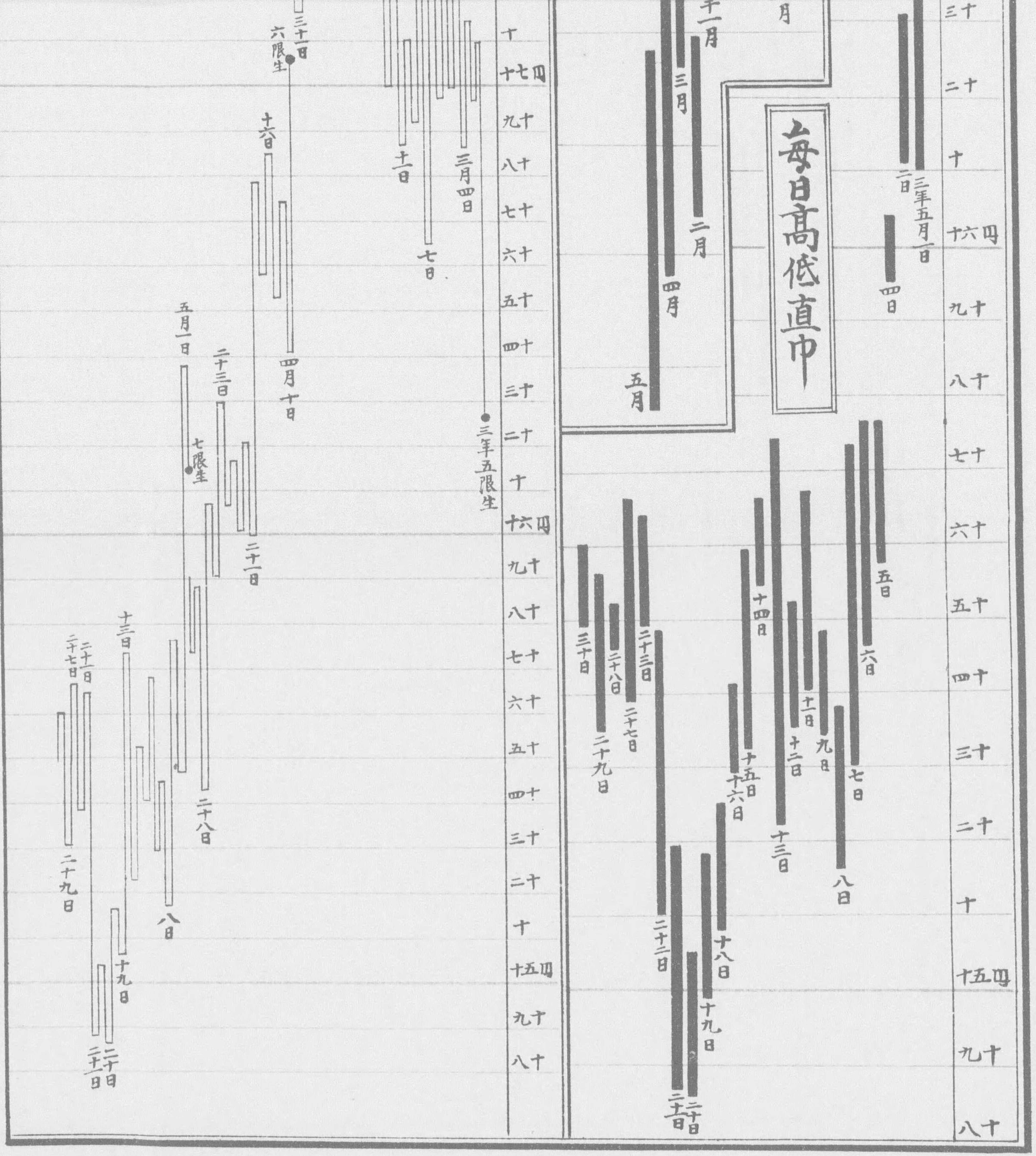


備

一、一日には一
高低ありとて
爲め當附錄を
一、當附錄は當
線に示せるも
一、相場の罫線
は其一部分に
一、相場の罫線
るも經過を知
一、經驗なき定
意を諒とし諸
の因を究めて
一、蓋し短期賣
く長期思惑の
一、短期賣買に
せざるや理の
一、毎節に亘る
着せずして一
年てふ長期に
五十丁百丁と
失ふ處尠ふし

（注意）毎月高
十丁線





備考

一、一日には一日の相場あり一ヶ月には一ヶ月の高低ありとて本論に記述せる處を尙明瞭にせん爲め當附錄を添附したり

一、當附錄は堂島米穀取引所最近の公定相場を罫線に示せるものなり

一、相場の罫線引方は種類頗る多く玆に表示せるは其一部分に過ぎず

一、相場の罫線は未來の高下を豫測するに足らざるも經過を知るに必要なり

一、經驗なき定期師の簇生を憂ふが如き立法者の意を諒とし諸君の修養を望むや切なり深く失敗の因を究めて萬全の策を講せざる可らず

一、蓋し短期賣買は有力なる敗因なるが如し須らく長期思惑の修養あらんことを

一、短期賣買には黑人筋尙且失敗多し素人の成功せざるや理の常然のみ

一、毎節に亘る高下の爭ひは勿論日々の相場に執着せずして一ヶ月を採用し更に三ヶ月六ヶ月一年てふ長期に及ぼし十丁より三十丁三十丁より五十丁百丁と大なる直巾に着眼せらるべし必ず失ふ處尠ふして得る處多からん

（注意）毎月高低直巾の横線五十丁を除く外は皆十丁線なり

270
446

#102
106

終